

計画の基本的考え方について

1.本市を取り巻く社会状況

- 少子高齢化と人口減少
- 財政面、人員面の制約
- 価値観・ライフスタイルの多様化
- 自然環境問題
- H28熊本地震からの復興

2.本市の公園の状況

- 都市公園ストックの一定の蓄積（1,078箇所、712ha）
- 老朽化施設（遊具、トイレ、ベンチなど）の増加と対応
- 厳しい財政制約

3.都市の将来像

- 上質な生活都市
（市民が住み続けたい、だれもが住んでみたい、訪れたいまち）
- 多核連携型の都市構造
- 大規模地震等の災害に対するレジリエントなまちづくり

※レジリエント：変化に対処する能力
（社会の回復力、弾力性、復元力など）

【水前寺江津湖公園における課題】

限られた予算の中で、様々な課題に対応する必要がある。

- ① **利活用（魅力と質の向上）**：まちなかにあるオアシスとしてのポテンシャルを活かしきれていない（観光面含）
- ② **環境保全**：水前寺江津湖公園の豊かな自然環境、文化資源を、いかに保全し、次の世代につなげていくか
- ③ **維持管理**：いかに老朽化施設（トイレ、照明灯、ベンチ等）の更新等をしていくか

アクティビティ・マネジメントプランの基本的考え方（目指すべき方向性）

市民の憩いの空間として、誰もが訪れたことのある江津湖公園。しかしながら、施設老朽化で施設の更新が迫るとともに、生物多様性を含む環境問題など、多くの課題を抱える公園となっている。
生物多様性の保全とともに、江津湖の持つポテンシャルを最大限に発揮し、誰もが誇れる、上質な公園空間の創出を実現する。

キーワード（視点）

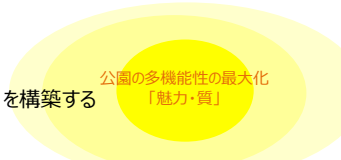
①「魅力」と「質」の向上

②適切な公園経営・資産運用

③運営手法と担い手づくり

基本的考え方（１）：「魅力」と「質」の向上

- 恵まれた自然環境（水、花緑、動植物など）を実感できる生物多様性の豊かな公園づくり
- 地域資源（美しい景観、歴史、文化）の顕在化を図る
→公園の魅力発信
- 「利用者ニーズにあった公園運営」への転換を図る
- 利用者視点にたった公園サービスを提供する
- 観光客にアピールできる個性に磨きかける
→自然環境に配慮した利活用の取り組みの実施
- 公園の質の評価を向上させていく仕組み（市民意見の反映）を構築する



基本的考え方（２）：適切な公園経営・資産運用

- 面積126haを有する江津湖公園を資産と捉え、この資産ストック効果をより高める
- 江津湖公園の持つポテンシャルを柔軟な発想で引き出す
- 民間との連携の加速による、都市公園の魅力向上を図る
- 民間活力を発揮、引き出しやすい環境を整備する（ガイドライン）
- 得られる収益を、維持管理費用、新たな魅力向上事業など、来園者のサービス向上につなげる

基本的考え方（３）：運営手法と担い手づくり

- 公園キャストの発掘、働きかけ、人材育成からキャストネットワークの拡大
- 地域のエリアマネジメント組織による公園運営
- 市民・事業者（民間）・行政の連携（知恵を絞り）による公園利用の幅を拡大する
- 市民・事業者（民間）・行政の連携した災害防災力を向上する
- 生物多様性に配慮した協働管理ルールを共有する

環境維持、向上

防災、防犯

景観づくり

まちの賑わいづくり
（イベント・アクティビティ）

情報の発信

コミュニティづくり